

丹後の感染症情報をお届けするメール通信

感 | 染 | 症 | 情 | 報 | @ | 丹 | 後 |

第3号 (2016年6月21日発行)

お待たせしました。こんにちは、丹後保健所 保健室 感染症・難病担当です。

うっとりしい梅雨の季節を迎え、ようやく今年度初の第3号の発行です。

丹後保健所に届出や報告のあった感染症について、医療関係者の方に知っていただきたい情報をピックアップしてお届けいたしますので、是非、日常の感染症診療にお役立てください。

不定期の発行となりますが、皆さまからの御意見をお待ちしています。

<主な内容>

- 管内で発生した結核事例の報告（その3）
- ダニ媒介感染症にご注意を
- 今夏の蚊媒介感染症対策について

■管内で発生した結核事例の報告（その3）■

透析通院中で一人暮らしのCさん（70代）は、定期的にTスポット検査を受けていましたが、陽転し、潜在性結核感染症で治療開始となりました。

登録直後より担当保健師が面接し、内服指導を行っていました。Cさんは当初、服薬に理解のある患者さんと思われましたが、DOTS（直接服薬確認療法）で、服薬できていないことが判明。INHで、皮膚症状が出現したため、ご本人に確認したところ勝手に内服を中断していたとのことでした。内服薬がRFPに変更になったことをきっかけに、服薬支援を見直すこととしました。保健師との同伴受診、週3日の透析室での内服、服薬手帳への記載のほか、週1回保健師が訪問し、残薬チェックする等の計画を立て、繰り返し内服の必要性を説明することで、無事治療完了することができました。

●この事例のポイント●

- 結核の治療中断・脱落防止は結核の再発及び多剤耐性菌結核の発生予防のために重要です。
- 保健所では、結核患者の服薬中断リスクを検討した上で、最低月1回のDOTSを行っています。今回のCさんの事例のように、一人暮らしや認知症高齢者等服薬中断リスクの高い患者に対しては、医療機関、薬局、施設、在宅支援者等と協力しながら服薬支援を行っていく必要があります。

■ダニ媒介感染症にご注意を■

野外での活動や農作業が盛んな時期となり、ダニに咬まれたとの相談の電話をしばしば受けます。春から秋はダニ類の活動が活発になることから、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）や日本紅斑熱など、ダニによる感染症が発生します。

日本においては昨年3月から12月までに、40人が重症熱性血小板減少症候群（SFTS）と診断され、うち11名が亡くなっており、丹後保健所管内では、昨年京都府で初めてのSFTS患者が2例発生しました。

現在のところSFTSウイルスに対して有効なワクチンはありませんので、草むらや藪などダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖長ズボンなどを着用し、肌の露出を少なくし、虫除けスプレーするなどダニに咬まれないようにすることが大切です。

[日本予防医学協会ホームページ：マダニからうつる感染症 Q&A]

<https://www.jpmp1960.org/pdf/madani-kansensho.pdf>

<重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について>

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts.html>

●SFTSの臨床特徴●

マダニによる咬傷後の原因不明の発熱、消化器症状、血小板減少、白血球減少、AST・ALT・LDHの上昇を認めた場合、本疾患を疑います。ただし、全ての症状や検査所見が認められる訳ではありません。そのため確定診断には、ウイルス学的検査が必要になります。SFTSのPCR検査は京都府保健環境研究所で実施可能です。疑い例がありましたら、保健所へご相談ください。

■今夏の蚊媒介感染症対策について■

京都府では、国が今年3月に「蚊媒介感染症にかかる指定感染症予防指針」を改正し、ジカウイルス感染症を追加したことを受け、「京都府の蚊媒介感染症対策方針」にもジカウイルス感染症対策を追加し、対策の強化を図っています。

●ジカウイルス感染症について●

ジカ熱の国内発生はなし。ブラジル中南米等流行地へ妊婦渡航時は感染に注意が必要です。先天性感染による小頭症、ギランバレー症候群の発生率増加が確認されています。

治療法は対症療法で、ワクチンはありません。

診断はウイルスRNAの検出（血清、唾液、尿）か、Zika特異的IgM抗体の血清診断。

デング熱にはNSI抗原キットがありますが、ジカにはまだありません。

ヒトヒト感染は性的接触感染、血液感染、母子感染があります。

流行地から帰国した男性は、最低8週間は性行為の際にコンドームを使用するか性行為を控えること、女性は最低8週間は妊娠を控えることが推奨されています。

不顕性感染が約8割を占めるため、感染者が無自覚に性的接触でパートナーに感染させ、胎児に影響を及ぼすおそれがあり、注意が必要です。

厚生労働省 ジカウイルス感染症に関するQ&A等より

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000109899.html>

★編集・発行★ 京都府丹後保健所 保健室 感染症・難病担当

〒627-0011 京都府京丹後市峰山町丹波 855

電話：0772-62-4312 FAX：0772-62-4368

【あとがき】

熊本地震の災害派遣で4月26日～5月2日まで阿蘇市内にある避難所で支援活動に行ってきました。すでに災害から10日経過し、早急な医療が必要な方はおられませんでした。長引く余震の不安から、寝泊まりされている方が多数おられました。

避難所の活動で一番注意したのは感染症予防です。有症状者の隔離、在宅酸素療法や透析治療中患者の逆隔離はすでにされていたので、手洗い指導とハイターによるトイレ消毒指導を主に行いました。トイレ掃除のメンバーは毎日変わり、その方法は各自に任されていたため、消毒の方法を繰り返し説明するとともに、トイレに消毒方法を掲示して誰もがわかるようにしました。その効果があったかどうか、幸い派遣中に感染症の集団発生はありませんでした。

現在、京都府の保健師は益城町への派遣となり、7月末までの派遣が決定しています。被災者の方々は長引く避難生活で疲労がたまり、免疫力の低下が心配されます。今後は熱中症予防、食中毒予防にも気をつけていただきたいと思います。(田邊)